



# OASE Operation Autonomy Support Engine

## Base 【実習編】

※本書では「Operation Autonomy Support Engine」を「OASE」として記載します。

Exastro Operation Autonomy Support Engine Version 1.3.1  
Exastro developer

# 目次

1. はじめに
    - 1.1 Base 【実習編】について
  2. シナリオ説明
    - 2.1 本書のシナリオ
  3. 事前設定
    - 3.1 グループ作成
    - 3.2 ユーザ作成、新規ユーザでのログイン
    - 3.3 トークン払い出し
    - 3.4 アクション設定（ITAドライバ）
    - 3.5 ディシジョンテーブル作成
  4. 作業実行
    - 4.1 ディシジョンテーブルファイル作成
    - 4.2 ルール登録（アップロード、テ스트リクエスト）
    - 4.3 ルール判定（curlコマンドによるリクエスト送信）
    - 4.4 アクション実行結果の確認
- A 付録  
サンプル1

# 1. はじめに

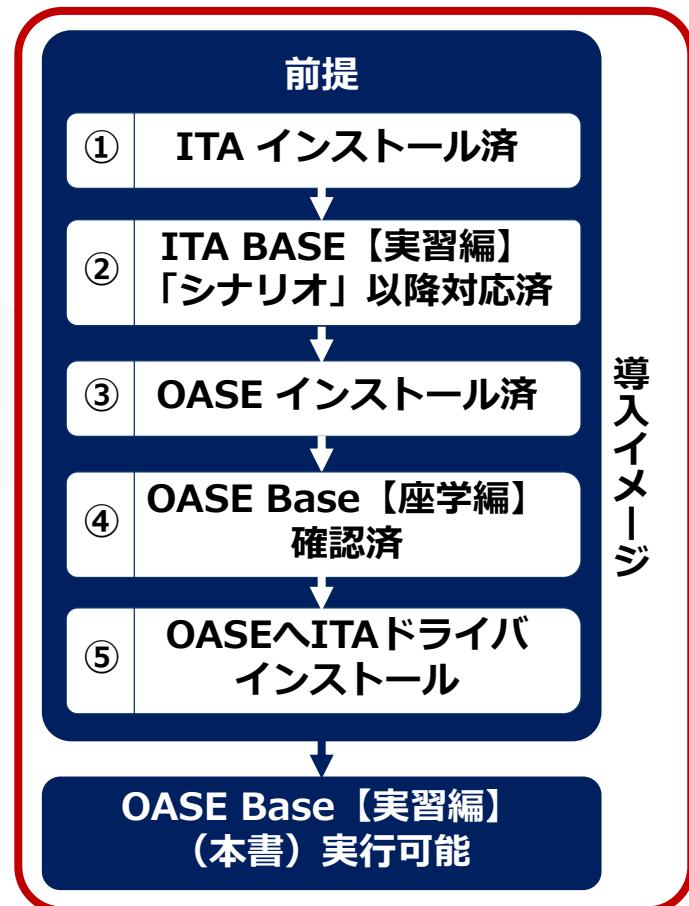


# 1.1 Base【実習編】について（1/2）

## 前提

- アクションとしてITAを実行するため、以下が導入済みであること

- ① ITAインストールについては以下を参照
  - [<ITA オンラインインストール マニュアル>](#)
- ② ITA BASE【実習編】については以下を参照
  - [<IT Automation BASE【実習編】>](#)
  - 上記の設定を使用するため実施する
  - 「シナリオ」スライド以降の内容を使用する
- ③ OASEインストールについては以下を参照
  - [<OASE オンラインインストール マニュアル>](#)
  - 一般ユーザ作成時のパスワード通知のため、インストール時にメールサーバの設定が必要
- ④ OASE Base【座学編】については以下を参照
  - [<OASE Base【座学編】>](#)
- ⑤ ITAドライバインストールについては以下を参照
  - [<環境構築マニュアル -ドライバインストール編->](#)



※本書では「Exastro IT Automation」を「ITA」として記載します。

# 1.1 Base【実習編】について (2/2)

## BaseではOASEの以下機能（画面）を用いる

- Dashboard画面

Dashboard

OASEにようこそ！

Exastro Operation Autonomy Support Engine

システム管理者

ルール

ディシジョンテーブル

トークン払い出し

ルール

リクエスト履歴

アクション履歴

システム

システム設定

SSO設定

グループ

ユーザ

監視アダプタ

アクション設定

アカウントロックユーザ

ブラックリスト

ホワイトリスト

管理

Exastro Operation Autonomy Support Engine

### カテゴリ：ルール

画面名称
ディシジョンテーブル
トークン払い出し
ルール
リクエスト履歴
アクション履歴

### カテゴリ：システム

画面名称
グループ
ユーザ
アクション設定

## 2. シナリオ説明



## 2.1 本書のシナリオ（1/2）

### OASEインストール後からアクション実行するまでのシナリオ

#### 【事前設定】

各種設定

- 1 グループ作成
- 2 ユーザ作成、新規ユーザでのログイン
- 3 トークン払い出し
- 4 アクション設定（ITAドライバ）
- 5 ディシジョンテーブル作成

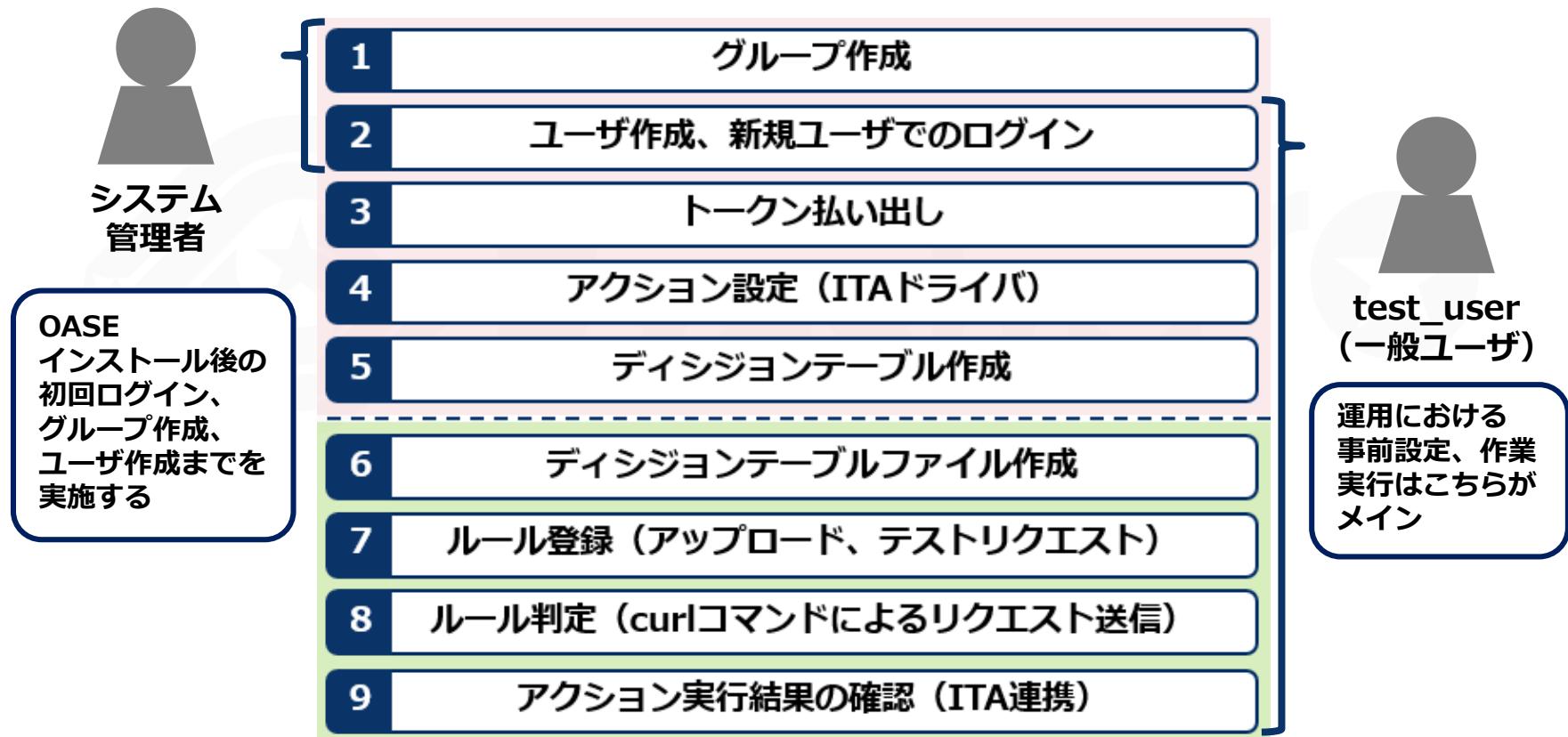
#### 【作業実行】

ルールの作成・登録  
メッセージ投入し  
ルールマッチング  
および  
アクションの実行

- 6 ディシジョンテーブルファイル作成
- 7 ルール登録（アップロード、テストリクエスト）
- 8 ルール判定（curlコマンドによるリクエスト送信）
- 9 アクション実行結果の確認（ITA連携）

## 2.1 本書のシナリオ(1/2)

本シナリオはグループ「test\_group」およびユーザ「test\_user」を新規作成し、一般ユーザの「test\_user」が一連の操作を実施する内容となる



### 3. 事前設定



### 3.1 グループ作成

#### グループ「test\_group」の新規追加

- ① システム管理者で初回ログインする
- ② グループ画面に遷移し「test\_group」を新規追加する
- ③ 「test\_group」のアクセス権限を設定する

The screenshot shows the 'Groups' section of the Exastro interface. A red box highlights the 'System Administrator' user in the top navigation bar. Another red box highlights the 'Group Name' input field containing 'test\_group'. A third red box highlights a table for setting access permissions, with the first row showing 'Group Name: test\_group' and the second column under 'Category: ルール' showing 'Updateable' (radio button selected). A fourth red box highlights another table for access permissions, with the first row showing 'Access Permission: 項目すべて' and the second column under 'Category: アクション設定' showing 'Updateable' (radio button selected).

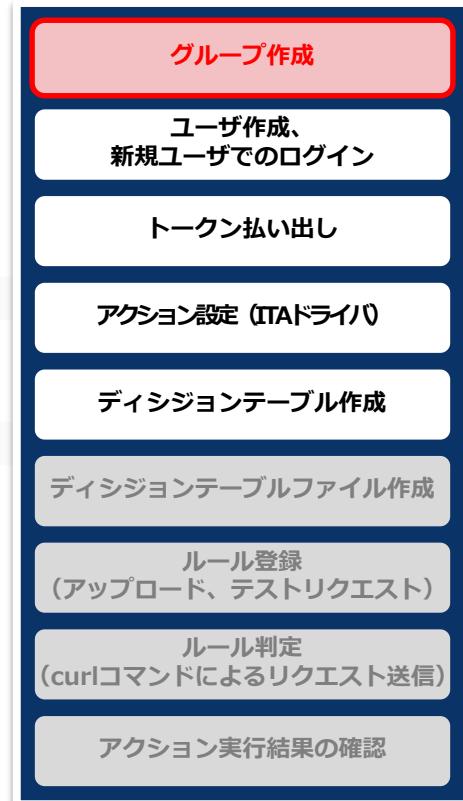
1 システム管理者

2 以下の値を入力する

項目	設定値
グループ名	test_group

3 以下の値を入力する

項目	設定値
アクセス権限	項目すべて 「更新可能」を選択



## 3.2 ユーザ作成、新規ユーザでのログイン

### ■ ユーザ「test\_user」の新規追加

- ① システム管理者で「ユーザ」画面に遷移
- ② 「ユーザ」画面で「test\_user」を新規追加する
- ③ システム管理者からログアウトし「test\_user」でログインする

The screenshot shows the OASE user management interface. At the top, there are tabs for Dashboard, Rules, System, and Management. In the Management tab, there's a sub-tab for 'User'. The main area shows a table with columns: 更新 (Update), ユーザ名 (User Name), ログインID (Login ID), メールアドレス (Email Address), グループ (Group), 最終更新者 (Last Updated By), and 最終更新日時 (Last Updated Date). A search bar at the top has fields for ユーザ名, ログインID, メールアドレス, and グループ, all containing 'test\_user'. Below the search bar are buttons for キャンセル (Cancel), リセット (Reset), 追加 (Add), and 保存 (Save). A status bar at the bottom indicates 'Exastro Operation Autonomy Support Engine'.

2 以下の値を入力する

項目	設定値
ユーザ名	test_user
ログインID	test_user
メールアドレス	(受信可能な メールアドレス)
グループ	test_group

POINT

ユーザ登録時に入力した  
メールアドレス宛に「ログイン  
ID通知」「パスワード通知」の  
メール2通が届きます。  
記載されているIDとパスワード  
でOASEにログインしてください。

The sidebar contains a vertical list of OASE features. It starts with a pink box for 'User Creation, Logging In as a New User'. Below it are several blue boxes: 'Token Issuance', 'Action Setting (ITA Driver)', 'Decision Table Creation', 'Decision Table File Creation', 'Rule Registration (Upload, Test Request)', 'Rule Judgment (curl Command Request)', and 'Action Execution Result Confirmation'.

### 3.3 トークン払い出し

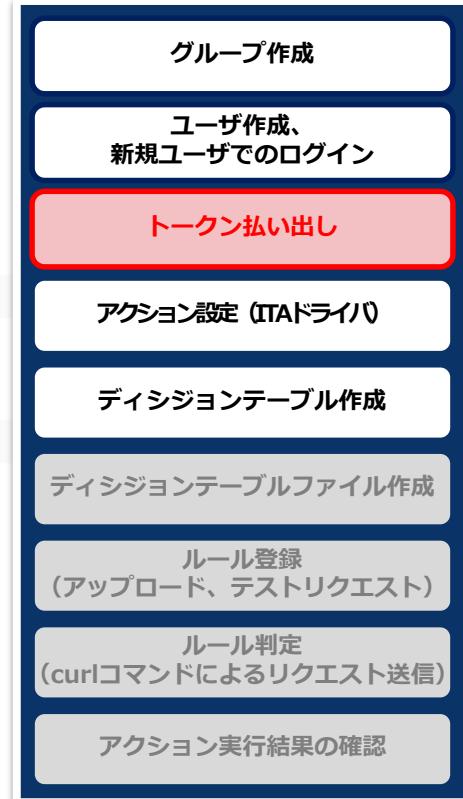
#### 新規トークンの払い出しを実施

- ① 「新規トークン払い出し」ボタンを押下
- ② 「新規トークン払い出し」画面で必要情報を入力
- ③ 「トークン払い出し」ボタンを押下
- ④ 「トークン」画面に表示されるトークンをコピーして保持する
- ⑤ 「閉じる」ボタンを押下



#### POINT

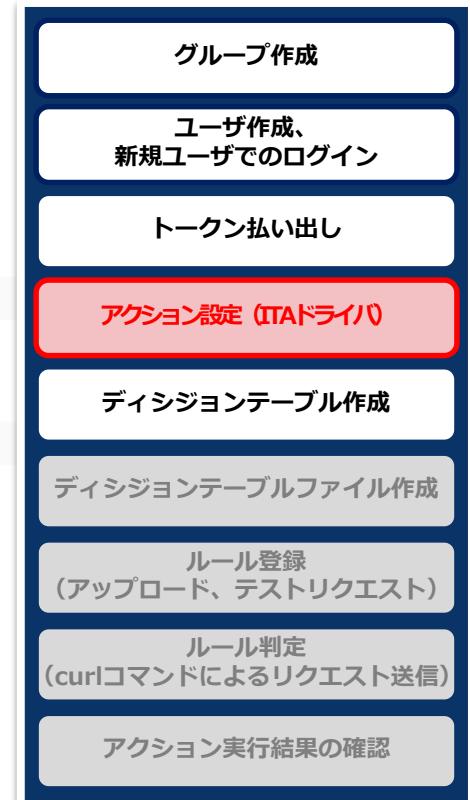
トークンは後述する[curlコマンドによるリクエスト送信](#)時に使用するため設定が必要です。



### 3.4 アクション設定 (ITAドライバ) (1/4)

#### アクション先の追加

- ① 「アクション設定」画面上の「アクション先の追加」ボタンを押下
- ② 「アクション先の選択」欄で「ITA Driver ver1」を選択



※ドライバをインストールしていない場合、上記の画面は表示されません。

POINT

事前に[環境構築マニュアル -ドライバインストール編->](#)を参照のうえ  
メールドライバをインストールしてください。

## 3.4 アクション設定 (ITAドライバ) (2/4)

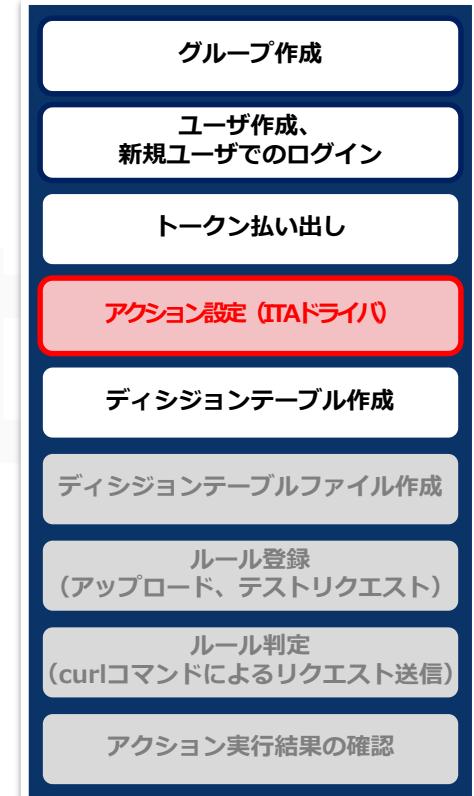
### アクション先の設定

- ① 「ITA Driver ver1」画面の必要情報を入力
- ② 「保存」ボタンを押下

1 以下の値を入力する

項目	設定値
名前	(任意の文字列)
バージョン	1.7.1
プロトコル	http
ホスト/IP	(ITAのホストおよびIPアドレス)
ポート	80
ユーザ名	administrator
パスワード	(ITAにログインできるパスワード)
権限の設定	test_group : 「更新可能」

2



POINT

「名前」は後述する<ディシジョンテーブルファイル作成>時に  
「どのアクション先に対してアクション実行するのか」  
指定するために必要です。

# 3.4 アクション設定 (ITAドライバ) (3/4)

## ITAの登録内容を変更する

- ① ITAにログインし [Learn ITA BASE【実習編】](#) のスライド  
「シナリオ」から「Symphony完了確認」まで実施する  
※章番号等は変更される場合があります。

The diagram illustrates the workflow for scenario registration:

- 3.1 シナリオ:
  - 作業対象ホストの登録
  - オペレーションの登録
  - IaCの登録
  - Movementの登録
  - Movement詳細の登録
  - オペレーションに関連付く Movementとホストの登録
  - Symphonyの登録
  - Symphonyの実行
  - Symphony完了確認
- 4.10 Symphony完了確認:
  - 実行中または実行完了したMovementを選択すると、対象作業ステータスや、ログを確認できる画面に遷移します。

- ② ITAの「Ansible-Legacy」メニューグループ > 「代入値管理」メニュー > 「一覧/更新」サブメニューの「具体値」を変更する

The screenshot shows the 'Concrete Value' input field highlighted with a red box and a red circle containing the number 2, indicating the target for modification.

A vertical list of actions for ITA driver configuration:

- グループ作成
- ユーザ作成、新規ユーザでのログイン
- トークン払い出し
- アクション設定 (ITAドライバ)** (highlighted with a red border)
- ディシジョンテーブル作成
- ディシジョンテーブルファイル作成
- ルール登録 (アップロード、テストリクエスト)
- ルール判定 (curlコマンドによるリクエスト送信)
- アクション実行結果の確認

**POINT**  
「具体値」に入力した名称で  
ディレクトリが作成されます。

### 3.4 アクション設定 (ITAドライバ) (4/4)

#### OASE-ITA連携に必要な以下の設定を実施する

- 「管理コンソール」メニュー グループ > 「ロール・メニュー紐付管理」メニュー > 「一覧/更新」サブメニューより、「Symphony紐付Movement一覧」が廃止されているのを復活させる

Exastro Management Console

表示フィルタ

廃止	項目	メニュー	最終更新日時	最終更新者
廃止のみ	~	▼ ブルダウントラック	▼ ブルダウントラック	▼ ブルダウントラック
				× Symphony紐付Movement一覧

△閉じる

一覧/更新

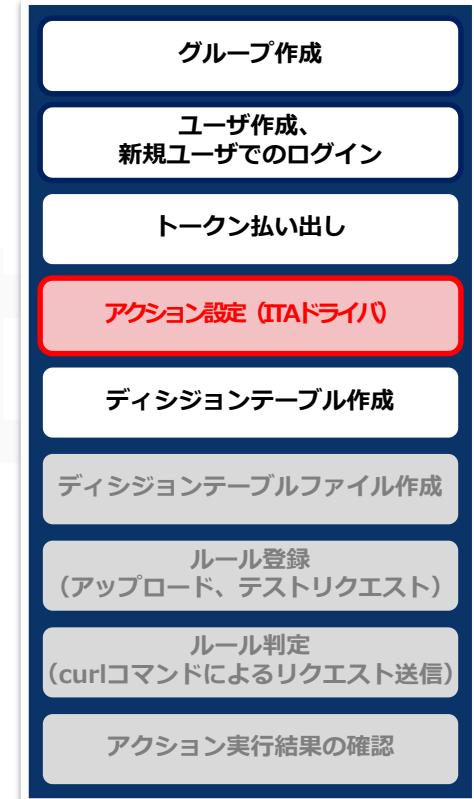
履歴	更新	廃止	項目	ロール	メニュー	紐付け	アクセス権	備考	最終更新日時	最終更新者	
変更	復活	廃止	ID	名前	ID	名前	紐付け	アクセス許可ロール	備考	最終更新日時	最終更新者
			1,000,000,311	システム管理者	2100100001	Symphony紐付Movement一覧	廃止のみ	システム管理者	2015/04/01 10:00:00	システム管理者	

△閉じる

フィルタ結果数: 1

EXCEL出力

「復活」ボタンを押下する



# 3.5 ディシジョンテーブル作成 (1/2)

## ディシジョンテーブルの作成

- ① 「ディシジョンテーブル」画面の「新規追加」ボタンを押下
- ② 「新規追加」画面の「基本情報・権限」タブに必要情報を入力
- ③ 「条件式の設定へ」ボタンを押下



2 以下の値を入力する

### 「基本情報・権限」タブ

項目	設定値
ディシジョン テーブル名	(任意の文字列)
権限の設定	test_group : 全て「更新可能」

### POINT

「権限の設定」では最低でも1グループは必ず  
「更新可能」を設定してください。  
ディシジョンテーブルの更新ができなくなります。

グループ作成

ユーザ作成、  
新規ユーザでのログイン

トークン払い出し

アクション設定 (ITAドライバ)

ディシジョンテーブル作成

ディシジョンテーブルファイル作成

ルール登録  
(アップロード、テストリクエスト)

ルール判定  
(curlコマンドによるリクエスト送信)

アクション実行結果の確認

### 3.5 ディシジョンテーブル作成 (2/2)

#### ディシジョンテーブルの作成

- ④ 「新規追加」画面の「条件式」タブに必要情報を入力
- ⑤ 「未知事象通知の設定へ」ボタンを押下
- ⑥ 「新規追加」画面の「未知事象通知」タブに必要情報を入力
- ⑦ 「保存」ボタンを押下

「条件式」タブ	
項目	設定値
条件名	(任意の文字列)
条件式	プルダウン選択

上記の値を入力する



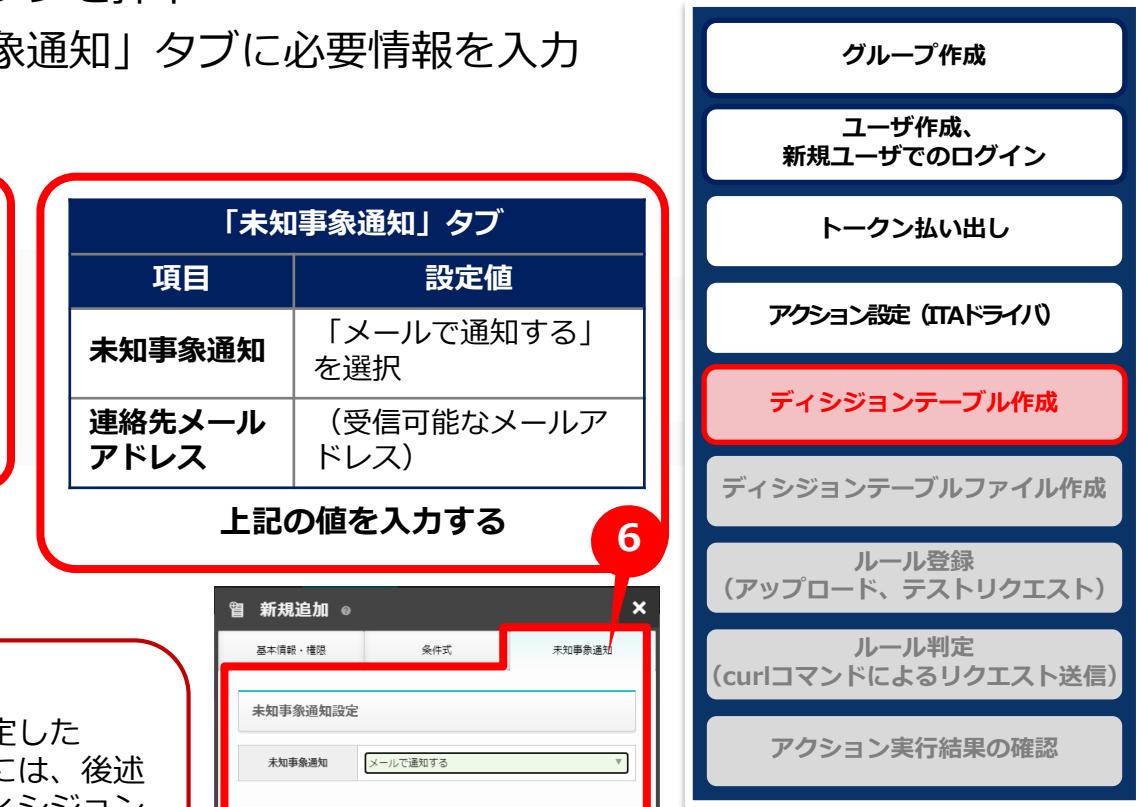
「未知事象通知」タブ	
項目	設定値
未知事象通知	「メールで通知する」を選択
連絡先メールアドレス	(受信可能なメールアドレス)

上記の値を入力する



POINT

設定した  
条件式には、後述  
するディシジョン  
テーブルファイル  
の「条件部」で具体  
値を設定します。



## 4. 作業実行



## 4.1 ディシジョンテーブルファイル作成 (1/3)

### ディシジョンテーブルファイルのダウンロードおよび作成

- 「3.2 ディシジョンテーブルの作成」で作成したディシジョンテーブルの「ダウンロードボタン」を押し下しディシジョンテーブルファイルをダウンロードする

操作	ディシジョンテーブル名	最終更新者	最終更新日時
	test_dt	test_user	2021年 06月 24日 22:32
	test_dt_01	test_user	2021年 06月 24日 22:33
	test_dt_02	test_user	2021年 06月 24日 22:34

- グループ作成
- ユーザ作成、  
新規ユーザでのログイン
- トークン払い出し
- アクション設定 (ITAドライバ)
- ディシジョンテーブル作成
- ディシジョンテーブルファイル作成**
- ルール登録  
(アップロード、テストリクエスト)
- ルール判定  
(curlコマンドによるリクエスト送信)
- アクション実行結果の確認

#### POINT

ディシジョンテーブルファイルの名前は自動生成されます（例「id000000000000.xlsx」）。先述の「ディシジョンテーブル名」とは異なります。各項目の記述内容については次のページで説明します。

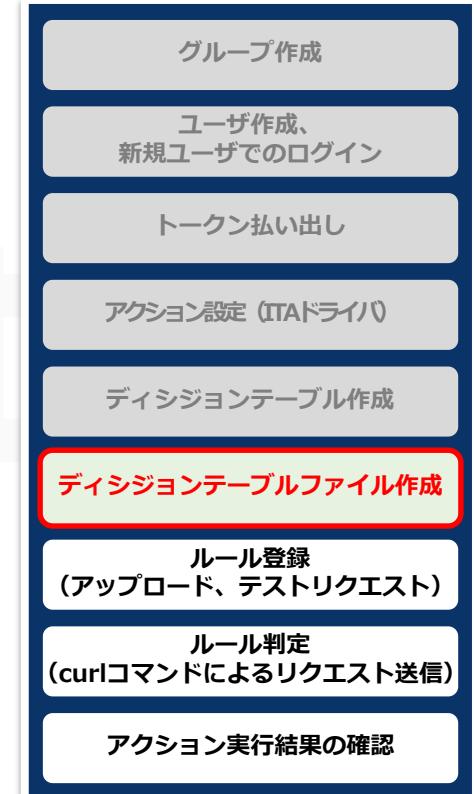
## 4.1 ディシジョンテーブルファイル作成 (2/3)

### ディシジョンテーブルファイルに以下の内容を記述作成

※具体的なディシジョンテーブルファイルの記述例は後述の[<A 付録 サンプル1>](#)を参照

ルール 説明	フラートレベル 正規表現可一覧	対象(正規表 現可一覧)	レール 名(必 需)	アクション種別 (必須)	アクションパラメータ情報(必須) ※ダブルクオーテーションは使用不可	行前パラメー ータ情報(必 需) ※ダブルク	ソ ト リ 止 回 件 期 間 大 小 大 小 優 優 有 無	ル ラ イ 回 件 期 間 大 小 大 小 優 優 有 無							
ルール1	^.*Error.*\$	^.*HDD.*\$	check_Error	ITA(vert)	ITA_NAME=test_ita,SYMPHONY_CLASS_ID=1,OPERATION_ID=1	x	1 1 0 0 x x	x	x x	x					
ルール2	^.*Warning.*\$	^.*memory.*\$	check_Warning	なし	x	x	1 1 0 0 x x	x	x x	x					
ルール3	^.*info.*\$	^.*%.*\$	check_Info	なし	x	x	1 1 0 0 x x	x	x x	x					

①コメント部	空白可。説明文など、自由なテキスト記述に使用可能。
②条件部	ルールがマッチングする条件を作成する。
③アクション部	<ul style="list-style-type: none"><li>ルール名ごとにどのようなアクションを実行するか設定可能。</li><li>「アクション種別」に指定可能なのは「アクション設定」画面で登録したドライバのみ。</li><li>アクション種別ごとに「アクションパラメータ情報」の書き方が異なるため要注意。</li><li>アクションを実行してもよいか、事前承認メールを送る設定も可能。</li></ul>
④アクション条件部	空白可。ルールを適用する期間の始まりから終わりまでを設定することが可能。



POINT

値の記述方法はディシジョンテーブルファイルの「記述例」シートを参照ください。  
ディシジョンテーブルファイルの更新後、任意の名称にファイル名を変更することができます。

# 4.1 ディシジョンテーブルファイル作成 (3/3)

## アクションパラメータ情報の記入方法

- 以下の項目を入力する

No.	アクション パラメータ情報	設定値
1	ITA_NAME	OASEの「ITA Driver ver1」タブ>「名前」に登録している名称
2	SYMPHONY_CLASS_ID	ITAの「Symphony」メニュー群>「Symphony作業実行」メニュー>「Symphony[一覧]」サブメニューに記載のID
3	OPERATION_ID	ITAの「Symphony」メニュー群>「Symphony作業実行」メニュー>「オペレーション[一覧]」サブメニューに記載のID

アクション種別 (必須)	アクションパラメータ情報 (必須) ※ダブルクオーテーションは使用不可
ITA(ver1)	ITA_NAME=test_ita,SYMPHONY_CLASS_ID=1,OPERATION_ID=1

アクション設定

操作	名前	バージョン	プロトコル	ポート
	test_ita	1.7.1	http	10.1

Exastro IT Automation Symphony

Menu

- メインメニュー
- Symphonyインターフェース
- Symphonyクラス一覧
- Symphonyクラス編集
- Symphony作業実行
- Symphony作業確認
- Symphony定期一覧
- Symphony定期作業実行

Symphony[フィルタ]

Symphony[一覧]

選択	SymphonyクラスID	Symphony名称	説明	アクセス権	備考
<input type="radio"/>	1	workflow			

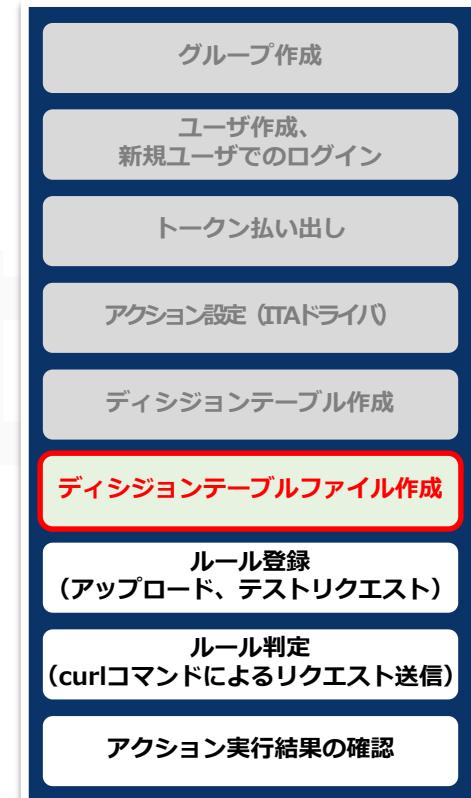
フィルタ結果件数: 1 ②

オペレーション[フィルタ]

オペレーション[一覧]

選択	オペレーションID	オペレーション名	実施予定時	最終実行日
<input type="radio"/>	1	operation	2021/06/24 11:30	2021/06/24

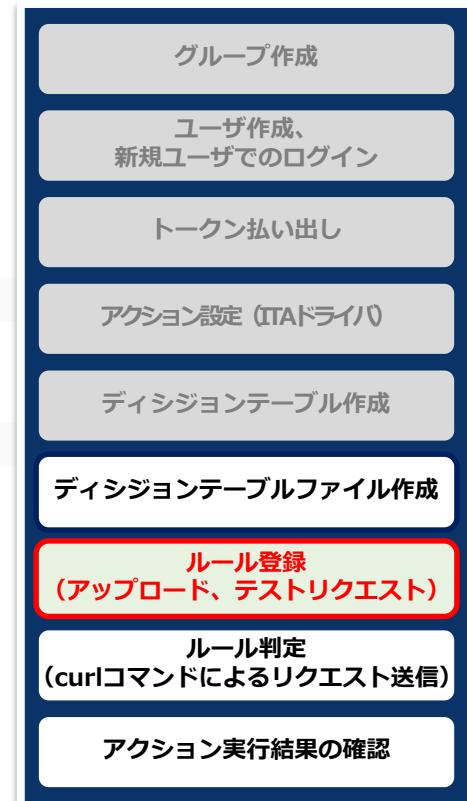
フィルタ結果件数: 1 ③



## 4.2 ルール登録（アップロード、テストリクエスト）(1/6)

### 【テストリクエストしたいディシジョンテーブルファイルを選ぶ】

- ① 「ルール」画面の「ファイルを選択」ボタンを押し作成したディシジョンテーブルファイルを選択
- ② 「アップロード」ボタンを押下
- ③ ダイアログの「OK」ボタンを押下



## 4.2 ルール登録（アップロード、テストリクエスト）(2/6)

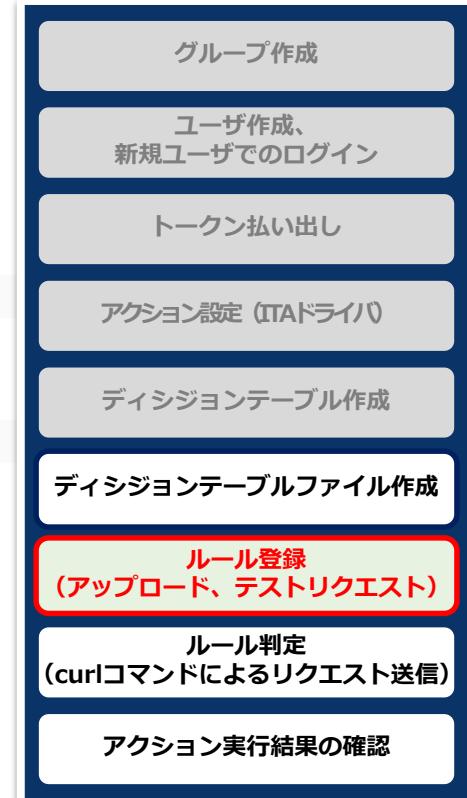
### ■ テストリクエスト対象の選択

- ① 「作業ステータス」欄が「ステージング適用完了」に遷移後「テストリクエスト」ボタンを押下
- ② 「ディシジョンテーブル」タブの「ディシジョンテーブル名選択」欄にて、テストしたいディシジョンテーブル名を選択
- ③ 「テストリクエスト設定へ」ボタンを押下

The screenshot shows the Exastro Operation Autonomy Support Engine interface. On the left, a modal window titled 'Test Request' is open, showing a table with a single row selected. The row contains the value 'test\_dt' in the 'Decision Table Name' column. A red circle labeled '2' points to this row. On the right, the main application window displays a table of rules. One row in the table has its 'Status' column highlighted with a red box and a red circle labeled '1'. The status value is 'Staging Applied Completed'. A red circle labeled '3' points to the 'Test Request' button at the bottom of the modal window.

POINT

作業ステータスは5秒間隔で自動的に更新されます。作業ステータスの遷移については  
[<利用手順マニュアル -ルール画面編- \(1\)ルール画面\(ステージング\)>](#)を参照ください。



## 4.2 ルール登録（アップロード、テストリクエスト）(3/6)

### ■ テストで値を入れて実行する

- ① 「設定」タブ内にて「一括テスト」タブを選択
- ② 「一括テスト用Excelファイルのダウンロード」ボタンを押下
- ③ 作成したルールに合致する値をファイルに記述

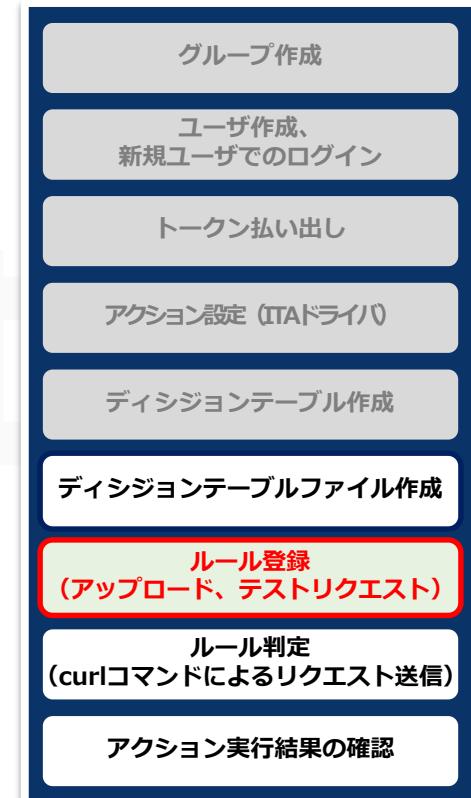
① 「設定」タブ内にて「一括テスト」タブを選択

② 「一括テスト用Excelファイルのダウンロード」ボタンを押下

③ 作成したルールに合致する値をファイルに記述

リクエスト名	イベント発生日時	アラートレベル	対象
ルール1用	2019-5-17 1:20:30	Error:	HDD usage 80% over
ルール2用	2019-5-17 1:20:30	Warning:	memory usage 80% over
ルール3用	2019-5-17 1:20:30	[info]	HDD usage 20% over

↑リクエストを増やす場合は、4行目以降をコピー、挿入によって行を増やしてください



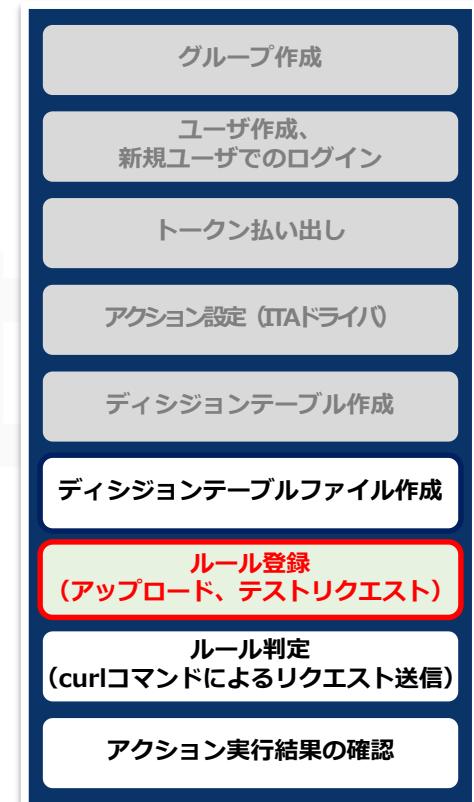
POINT

作成したディシジョンテーブルファイルの「条件部」に合致する値か否かテストします。

## 4.2 ルール登録（アップロード、テストリクエスト）(4/6)

### ■ テストで値を入れて実行する

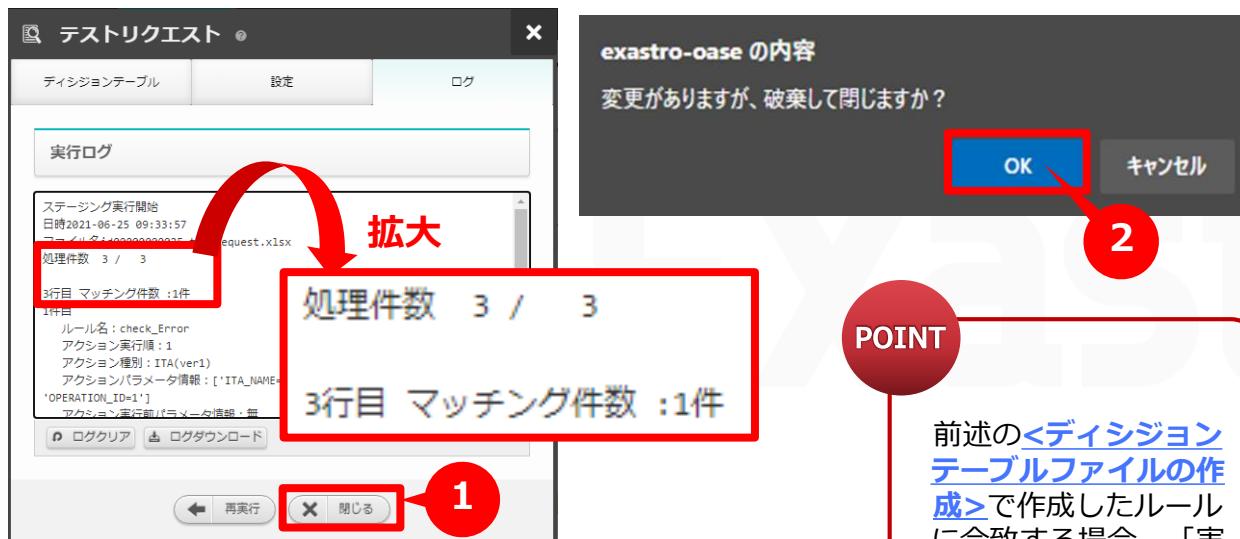
- ④ 「ファイルを選択する」ボタンを押下し、更新した一括テスト用Excelファイルを選択
- ⑤ 「実行」ボタンを押下
- ⑥ ダイアログの「OK」ボタンを押下



## 4.2 ルール登録（アップロード、テストリクエスト）(5/6)

### ルールが有効か確認する

- 「ログ」タブの「実行ログ」欄にてログを確認
  - 「閉じる」ボタンを押下
  - ダイアログの「OK」ボタンを押下



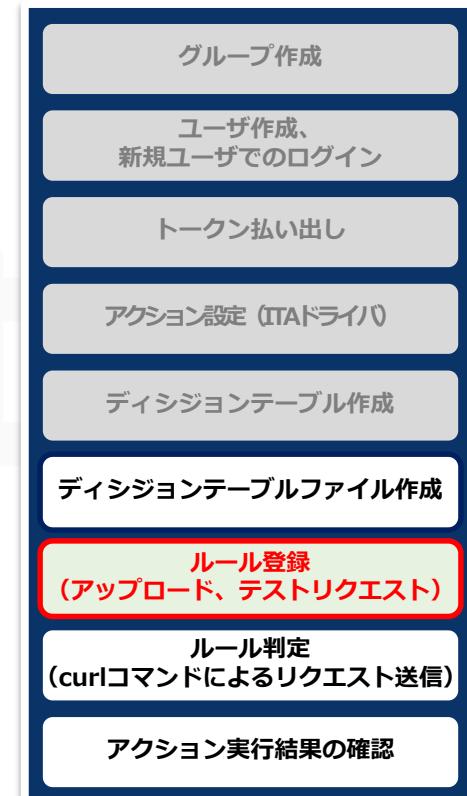
- 正常に処理されルールがマッチングした場合
  - ダイアログの「OK」ボタンを押下



POINT

前述の<ディシジョンテーブルファイルの作成>で作成したルールに合致する場合、「実行ログ」欄に「○行目 マッチング件数：○件」と表示されます。

ルールがマッチングすると「運用ステータス」が次のステータスに移ります。



## 4.2 ルール登録（アップロード、テストリクエスト）(6/6)

### 検証完了したルールを本番環境で使用できるようにする

- ルールを本番環境で使用できるようにするために「ステージング適用ルール」から「プロダクション適用ルール」に適用させる

- 「ステージング適用ルール」の「運用ステータス」欄が「検証完了」に遷移していることを確認
- 「操作」欄の「適用ボタン」を押下
- ダイアログの「OK」ボタンを押下

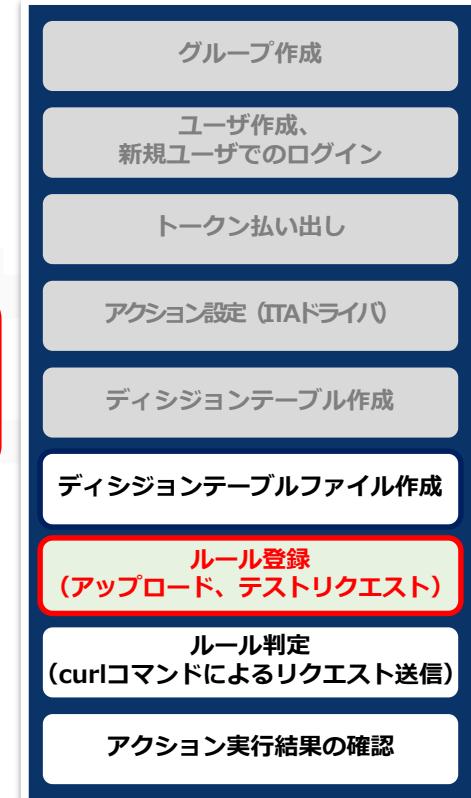


1 テストリクエストが正常に  
ルールマッチングされた場合  
「検証完了」と表示される

3 プロダクション環境の  
運用ステータスが  
「プロダクション適用完  
了」に遷移すると本番環  
境で使用が可能となる

POINT

作業ステータスは5秒間隔で自動的に更新されます。作業ステータスの遷移については  
[<利用手順マニュアル -ルール画面編- \(2\)ルール画面\(プロダクション\)>](#)を参照ください。



## 4.3 ルール判定 (curlコマンドによるリクエスト送信) (1/2)

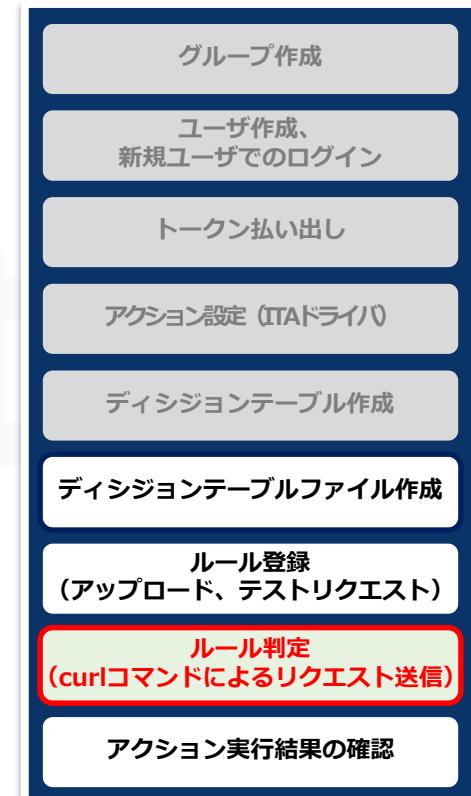
### メッセージを投入しプロダクション適用ルールとマッチングさせる

- ターミナルを開き、以下のコマンドをルールに合わせ書き換えたうえで実行する

※curlコマンドの使用例は後述の[付録 サンプル1](#)を参照

```
curl -X POST -k "https://<①ホスト名>/oase_web/event/event/eventsrequest" -H "accept: application/json" -d "{\"decisiontable\": \"<②ディシジョンテーブル名>\", \"requesttype\": \"<③リクエスト種別>\", \"eventdatetime\": \"<④イベント発生日時>\", \"eventinfo\": [\"<⑤イベント情報>\"]}" -H "Authorization: Bearer <⑥トークン>"
```

① ホスト名	有効なホスト名、IPアドレスを入力
② ディシジョンテーブル名	プロダクション適用済みのディシジョンテーブル名を入力
③ リクエスト種別	投入先「1:プロダクション」の「1」を入力 例) ,\"requesttype\": \"1\",
④ イベント発生日時	「yyyy/mm/dd hh:mm:ss」形式で日付を入力 例) ,\"eventdatetime\": \"2020/01/01 01:01:01\",
⑤ イベント情報	リスト形式で指定　例) [\"2\", \"あああ\"]
⑥ トークン	「トークン払い出し」画面で払い出したトークンを入力



POINT

HTTPSリクエストの詳細については[RestAPI機能 利用マニュアル](#)を参照してください。

## 4.3 ルール判定 (curlコマンドによるリクエスト送信) (2/2)

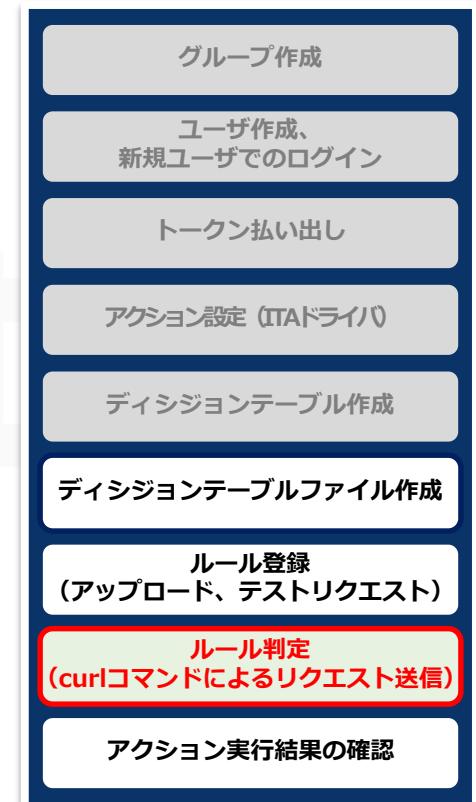
### 「リクエスト履歴」画面を確認

- curlコマンドでパラメータを指定しリクエスト送信した履歴が追加される
- 「リクエスト履歴」画面で表示する項目は「■」ボタン押下により変更可能

ルールマッチ状況	リクエスト種別	ディシジョンテーブル名	リクエスト受信日時	イベント情報
✓	プロダクション環境	test_dt	2021年6月25日9:42	{"EVENT_INFO": ["Error:", "HDD usage 80% over"]}
?	ステージング環境	test_dt	2021年6月25日9:33	{"EVENT_INFO": ["[info]", " HDD usage 20% over"]}
✓	ステージング環境	test_dt	2021年6月25日9:33	{"EVENT_INFO": ["Warning:", " memory usage 80% over"]}
✓	ステージング環境	test_dt	2021年6月25日9:33	{"EVENT_INFO": ["Error:", " HDD usage 80% over"]}
✓	ステージング環境	test_dt	2021年6月25日9:11	{"EVENT_INFO": ["Error: HDD usage 80% over", "Error: HDD usage 80% over"]}

件数 5 表示する件数 50 / 1 ▲ ▼ ■

ルールマッチ状況  
リクエスト種別  
ディシジョンテーブル名  
リクエスト受信日時  
イベント情報  
イベント発生日時  
イベントシリアルNo.



## 4.4 アクション実行結果の確認(1/3)

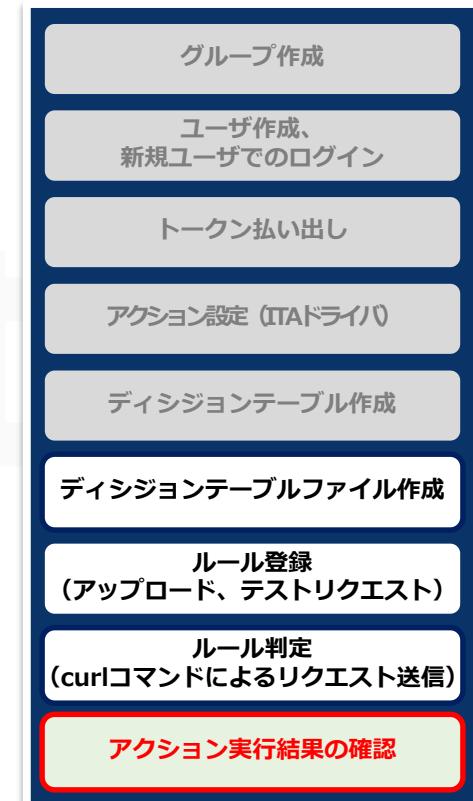
### アクション実行

- ルールマッチした場合、事前設定で設定したとおりアクションが実行され「アクション履歴」画面で結果の確認が可能
- 前述した<4.1 ディシジョンテーブルファイル作成>のアクション部にて設定した内容でアクションが実行される

### アクション履歴

- ルールマッチングし実行されたルールが「アクション履歴」画面に表示されていることを確認する

アクション履歴						
状態	操作	ディシジョンテーブル名	ルール名	アクション種別	最終実行日時	最終実行者
✓		test_dt	check_Error	ITA(ver1)	2021年 06月 25日 10:49	test_user
!		test_dt	check_Error	ITA(ver1)	2021年 06月 25日 09:45	test_user



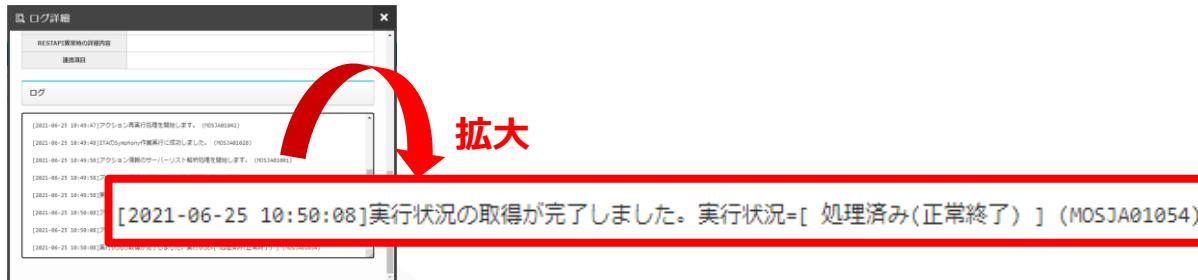
POINT

アイコンの詳細については<利用手順マニュアル -アクション履歴編->を参照してください。

## 4.4 アクション実行結果の確認(2/3)

### ITAで処理が実行されたことを確認する

- OASEのログ詳細より、正常に処理が完了したことを確認



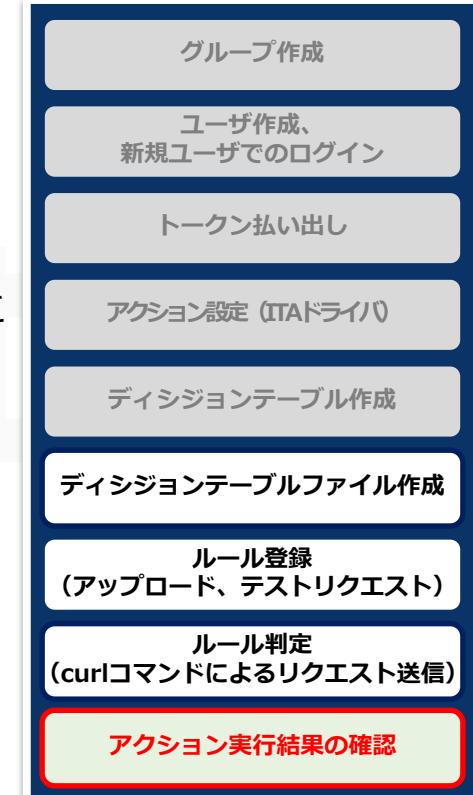
- ITAの「Symphony作業一覧」より、「ステータス：正常終了」となっていることを確認



- 設定した内容で新規にディレクトリが作成されていることを確認

The screenshot shows two terminal sessions. The first session shows the creation of a directory named "testdirectory". The second session shows the listing of files and directories in the current directory, where "testdirectory" and "oase\_testdirectory" are listed. A red arrow points from the first session to the second session, indicating the result of the action.

```
[tmp]# pwd  
/tmp  
[tmp]# find ./ -name "*directory" -type d  
./testdirectory  
[tmp]#  
[tmp]# find ./ -name "*directory" -type d  
./testdirectory  
./oase_testdirectory  
[tmp]#
```



## 4.4 アクション実行結果の確認(3/3)

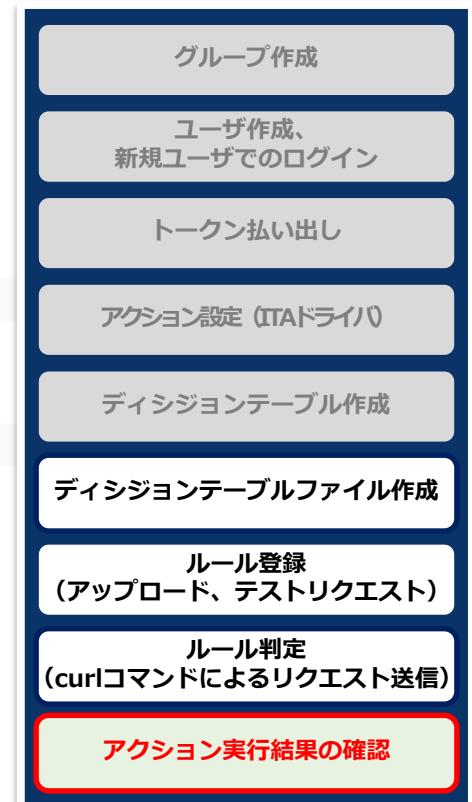
### 未知事象の場合

- 既知事象として定義できていないものがリクエスト送信された場合、「[OASE]未知事象通知」というタイトルのメールが届く

The screenshot shows the OASE interface with the 'ルール' (Rules) tab selected. On the left, a 'Request History' table lists several entries. The fourth row from the top has a red box around its first column, which contains a question mark icon. A red arrow points from this box down to a red box at the bottom left containing the text 'ルールマッチ状況 : ルール未検出' (Rule Match Status: Rule Not Found). The right side of the screen displays an email message from 'noreply@example.com' with the subject '[OASE] Unknown Object Notification'. The email body contains details about the event, including the environment (Staging), date (2021-04-26), time (02:20:00+00:00), and the curl command used for the request.

ルールマッチ状況	リクエスト種別	ディシジョンテーブル名
✓	プロダクション環境	test_dt
✓	プロダクション環境	test_dt
?	ステージング環境	test_dt
✓	ステージング環境	test_dt
✓	ステージング環境	test_dt
✓	ステージング環境	test_dt

2021/06/25 (金) 12:40  
noreply@example.com  
[OASE]未知事象通知  
本メールは、『Operation Autonomy Support Engine』より  
自動送信しています。  
=====  
設定されたルールにマッチしないイベント情報が OASE に投入されました。  
未知事象となりますのでご確認ください。  
[ディシジョンテーブル名]  
test\_dt  
[イベント発生日時]  
2021-04-26 02:20:00+00:00  
[リクエスト受信日時]  
2021-06-25 03:39:48.301611+00:00  
[イベント情報]  
{"EVENT\_INFO":["message:","SKIP"]}  
[トレース ID]  
TOS\_20210625033948269850\_0000000144



# A 付録



# サンプル1(1/4)

## サンプル値を入力しOASEを実行する

- 「Error:」および「HDD」というメッセージが投入された場合、ITAが実行され「oase\_testdirectory」という名称のディレクトリが作成されるようとする
- 既知事象ではないメッセージ（「message:」および「SKIP」）を受け取った場合は「[OASE]未知事象通知」というタイトルのメールで通知するようとする

### 【事前設定】

#### ① 「トークン払い出し」画面

- curlコマンドによるリクエスト送信時に必要なトークンを用意する

トークン名 practice\_token

(他、必要情報を登録)

#### ② 「アクション設定」画面

- 「ITA Driver ver1」を用意する

名前 test\_ita

バージョン 1.7.1

(他、必要情報を登録)

#### ③ 「ディシジョンテーブル」画面

- 「アラートレベル」「対象」が合致条件となるディシジョンテーブルを作成する

ディシジョンテーブル名	test_dt
権限の設定 (test_group)	全て「更新可能」

条件名	条件名
アラートレベル	正規表現に一致する
対象	正規表現に一致する

未知事象通知 メールで通知する

(他、必要情報を登録)

POINT

本書内[<3.3 トークンの払い出し>](#)、[<3.4 アクション設定 \(ITAドライバ\)>](#)、[<3.5 ディシジョンテーブル作成>](#)の範囲です。

# サンプル1(2/4)

## 【作業実行】

### ④ 「ディシジョンテーブル」ファイル

- ・ ディシジョンテーブルファイルをリネームして保存する

ファイル名 test\_dt.xlsx

- ・ 「アラートレベル：“Error:”」「対象：“HDD”」がヒットするルールを作成する

ルール説明	アラートレベル	対象	ルール名	アクション種別	アクションパラメータ情報
ルール1	^.*Error.*\$	^.*HDD.*\$	check_Error	ITA(ver1)	ITA_NAME=test_ita,SYMPHONY_CLASS_ID=1,OPERATION_ID=1
ルール2	^.*Warning.*\$	^.*memory.*\$	check_Warning	なし	X
ルール3	^.*info.*\$	^.*%.*\$	check_Info	なし	X

(他、ディシジョンテーブルファイルの「シート：記述例」を参考に必要情報を登録)

### ⑤ 「ルール（ステージング適用ルール）」画面

- ・ 作成したディシジョンテーブルファイルをアップロードする

ファイルを選択

test\_dt.xlsx

POINT

本書内  
[<4.1 ディシジョンテーブルファイル作成>](#)、  
[<4.2 ルール登録（アップロード、テストリクエスト）>](#)の範囲です。

# サンプル1(3/4)

## ⑥「テストリクエスト」画面

- アップロードしたディシジョンテーブルファイルに複数のリクエストが来た場合、どのルールがマッチングするかテストする

ディシジョンテーブル名選択

test\_dt

一括テストリクエスト

リクエスト名	イベント発生日時	アラートレベル	対象
ルール1用	2019-5-17 1:20:30	Error:	HDD usage 80% over
ルール2用	2019-5-17 1:20:30	Warning:	memory usage 80% over
ルール3用	2019-5-17 1:20:30	[info]	HDD usage 20% over

ファイルを選択

id000000000xx\_testrequest.xlsx

POINT

本書内 [<4.2 ルール登録（アップロード、テストリクエスト）>](#)の範囲です。

# サンプル1(4/4)

## ⑦ターミナル操作 (Linuxサーバ)

用意したルールに対しcurlコマンドでリクエストを投げる  
※赤字箇所はご変更ください。

```
curl -X POST -k "https://<HostName>/oase_web/event/event/eventsrequest" -H "accept: application/json" -d
"{"decisiontable": "test_dt", "requesttype": "1", "eventdatetime": "2020/01/01
01:01:01", "eventinfo": [{"Error": "HDD usage 80% over"}}" -H "Authorization: Bearer
<Access_Token>"
```

## ⑧未知事象通知

右記情報のメールが  
届いたことを確認する

件名	[OASE]未知事象通知
本文	<p>[ディシジョンテーブル名] [イベント発生日時] [リクエスト受信日時] [イベント情報] [トレースID]</p>

2021/06/29 (金) 12:40  
noreply@example.com  
[OASE]未知事象通知  
本メールは、『Operation Autonomy Support Engine』より  
自動送信しています。  
-----  
設定されたルールにマッチしないイベント情報がOASEに投入されました。  
未知事象となりますのでご確認ください。  
-----  
[ディシジョンテーブル名]  
test\_dt  
[イベント発生日時]  
2021-06-26 02:20:00+00:00  
[リクエスト受信日時]  
2021-06-25 02:39:48.301611+00:00  
[イベント情報]  
["EVENT\_INFO": {"message": "", "SKIP": ""}]  
[トレース ID]  
TOS\_20210625033948269850\_0000000144

POINT

本書内<4.3 ルール判定 (curlコマンドによるリクエスト送信)>および  
<4.4 アクション実行結果の確認>の範囲です。



**Exastro**